

「教育・文化・安心」で沿線地域の発展に貢献



大阪・関西万博が開催される2025年度は、阪急阪神ホールディングスにとって阪急と阪神の経営統合(2006年)から20年を迎える節目。同社トップである角和夫氏に、関西の鉄道事業者として、また財界リーダーの立場として、万博を契機とした大阪・関西活性化への思いなどを伺った。

小林一三の事業戦略

当社の基幹事業である鉄道は、阪急・阪神とも100年以上の歴史があります。大阪と神戸の財界人が発起人となって創業した阪神電鉄は、1905年に大阪(出入橋)ー神戸(三宮)間で営業を開始しました。このとき阪神は、将来、大都市間の輸送は大量かつ高速になると予見し、安全上の観点などから幅広の標準軌*1でレールを敷設しました。狭軌にする考えが一般的だった時代、阪神の技術者はアメリカまで行って標準軌を学び設計したのです。

阪急電鉄は、その5年後の1910年に梅田ー宝塚間および箕面ー石橋間を開業しました。当時、通勤・通学の利用者が毎日確実に見込める阪神電鉄や南海電鉄と違い、農村地帯がルートの阪急電鉄に行楽目的以外の輸送需要は全くないと思われました。そこで創業者の小林一三は、新たな輸送需要をつくるため、さまざまな知恵を働かせました。まずは田園地帯が広がる池田室町で宅地開発を行い、現在の住宅ローンの先駆けともいえる住宅の割賦販売を提案しました。大大阪時代の工業化で空気が汚れた市内ではなく、環境の良い郊外にマイホームを持つことをサラリーマンに訴え、新たなライフスタイルを生み出したのです。

また、電力供給事業や、郊外への輸送需要を増やすべくレジャー施設の開発も行いました。1911年に宝塚新温泉を



宝塚大劇場公演フィナーレ

©宝塚歌劇団

オープンし、洋館の中に洒落たレストランや室内プールを建設しました。プールは失敗しましたが、1914年にそれを劇場に転用し、宝塚少女歌劇(現在の宝塚歌劇)の第1回公演が行われました。これが人気を博し、10年後の1924年には4,000人収容の宝塚大劇場を建設しました。宝塚歌劇は、小林一三の「大衆が安価に楽しめる健全で分かりやすい娯楽を提供したい」という思いから誕生したのです。

*1：標準軌…欧米など世界でもっとも多く採用されているレール幅。新幹線のレールも標準軌。

時代に則したビジネスモデル

小林一三は日本の私鉄経営のビジネスモデルを確立しましたが、それは鉄道事業者として後発だったからこそ発揮されたベンチャー精神からでした。沿線を大事にして、良質な住宅や商業、文化施設などを提供することで沿線のブランド力を高め、「沿線に住みたい・沿線に行きたい」という人々を創出するという、このビジネスモデルは100年を経た現在も不変ですが、時代に則してリプレイスしていくことも重要です。

かつて当社グループは、宝塚ファミリーランド、阪急ブレーブス(西宮スタジアム)、宝塚歌劇の三つの事業において毎年大



阪急西宮ガーデンズ

きな赤字を出していました。民間企業ですから、収支の合わない事業を継続することはできません。そこで宝塚ファミリーランドは住宅や商業施設に転用し、その一部に関西学院の初等部(小学校)がで、現在、宝塚市が

庭園と一体になった芸術文化施設の整備を進めており、2020年春にオープン予定です。また、西宮スタジアムの跡地には百貨店や映画館などを含む大型ショッピングセンターの阪急西宮ガーデンズ(2008年)を建設しました。その周辺には、当社所有の土地をお貸して、兵庫県立芸術文化センター(2005年)や甲南大学(2009年)に来てもらいました。すべては当社事業のキーワードである「教育・文化・安心」に立った上でのリプレイスです。

宝塚歌劇は事業として成り立つようにさまざまな見直しを行い、1998年から東京での通年公演を開始し、2001年には新しい東京宝塚劇場がオープンしました。昨年に105周年を迎えましたが、その歴史の中で今が一番多くのお客様に来ていただいていると思います。現在、宝塚大劇場と東京宝塚劇場あわせて年間約900公演行っており、チケットは毎回売り切れ。こうして利益の出せる自立した事業になれば、海外の人気作品の上演権も買えるし、公演内容の質も向上します。最近は海外での人気も高まり、現地スポンサーのご支援もお願いしやすくなりました。

こうした取り組みの結果、メジャーセブン*2の「住んでみたい街アンケート(2019年・関西版)で、西宮北口が4年連続で1位にランクされました。また、日本生産性本部が調査した2018年度の日本版顧客満足度指数によれば、宝塚歌劇団がエンタテインメント業種で3年連続1位(総合1位)、阪急電鉄は近郊鉄道業種で10年連続1位(総合22位)にランクされています。

*2: メジャーセブン…住友不動産、大京、東急不動産、東京建物、野村不動産、三井不動産レジデンシャル、三菱地所レジデンスの7社

囲碁とエレキギター

音楽や文化的なことに学生時代から興味があり、19歳から囲碁を始めました。文化を守り振興するためにはお金も必要ですが、近年はスポンサーの減少で日本での国際棋戦がありませんでした。そこで企業に呼びかけ、阪急電鉄を含め企業4社の協賛で優勝賞金3,000万円の国際棋戦「第1回ワールド碁チャンピオンシップ」が2017年に日本棋院関西総本部(大阪市)で開催されました。その記念に井山裕太さん³と対局させていただき、とてもいい思い出になりました。(囲碁界に貢献した点を配慮してもらい7段に昇段)

また、中学3年生でエレキギターをはじめ、高校生になるとバンドを組んで演奏していました。宝塚歌劇団の春野寿美礼さんの退団公演・サヨナラショーには「こんなにも愛されて」という曲を歌詞・作曲しプレゼントしました。

*3: 井山裕太…1989年大阪府出身。九段(棋聖、本因坊、王座、天元)、2017年関西元氣文化園賞特別賞、2018年国民栄誉賞受賞。日本棋院関西総本部所属。

関西の強みを活かしたイノベーション

2025年大阪・関西万博の開催に向けて、昨年10月、関西に主要路線を持つ鉄道会社7社が、「MaaS(マース: Mobility as a Service)」の導入について共同で検討することに合意しました。関西地域で出発地から目的地までのシームレスな移動手段を提供するもので、鉄道利用者や地域社会、次世代のまちづくりに貢献する取り組みです。

また、当社独自の取り組みとして、SDGs*4の実現に向けて、まちのより良い環境づくりと、まちの将来を担う次世代の育成を重点とする「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」があります。昨年5月から今年5月までの間、プロジェクトの10周年を記念して、阪急神戸線・宝塚線・京都線と阪神本線



SDGsトレイン未来のゆめ・まち号

において、SDGsの啓発メッセージを発信する「SDGsトレイン未来のゆめ・まち号」を運行しています。車両にSDGsの取組項目を親しみやすく表現したラッピングを施し、車内の全ての広告スペースを使ってSDGsが掲げる目標の解説や、当社グループをはじめ国や沿線自治体、協賛企業、市民団体などのSDGsへの取り組みに関するメッセージを掲示するものです。これが外務省から日本の取り組みとして、国連本部の会合でもご紹介いただいたようです。

関西は、古くから医学や創薬に関する研究や事業が盛んです。近年は、ノーベル賞受賞者を多く輩出している京都大学をはじめ、国公立大学医学部、神戸医療産業都市、彩都ライフサイエンスパーク、けいはんな学研都市、健都、うめきたや中之島などに、先進的な医薬研究機関が集積しています。また、大阪・関西万博の会場となる夢洲にも、そうした拠点としての活用が期待されています。

2015年、関西の行政機関と産業界が大学や研究機関と協力し、「関西健康・医療創生会議」(議長: 井村裕夫京都大学名誉教授)が創設されました。私は、こうした産学官の密接な連携によって、健康長寿社会の実現に向けて産業や人材育成のイノベーションを起こすことで、関西を健康・医療の先進地域として世界をリードする魅力的な地域にしていかなければならないと思います。「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマの2025年大阪・関西万博は、まさにそのチャンスといえるでしょう。

*4: SDGs…「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」。2015年9月の国連サミットで採択され、貧困や教育、環境保護など17分野での社会課題の解決を達成しようというもの。

写真提供: 阪急阪神ホールディングス

角 和夫(すみ かずお)氏

1949年兵庫県宝塚市出身。1973年早稲田大学政治経済学部を卒業し、同年阪急電鉄入社。2003年同社代表取締役社長、2006年阪急阪神ホールディングス代表取締役社長を経て現職(阪急電鉄会長を兼任)。(公社)関西経済連合会副会長(2011年5月～)、関西健康・医療創生会議アドバイザー・ボードメンバー。

阪急阪神ホールディングス株式会社

大阪市北区芝田1丁目16番1号(本社事務所)。資本金994億7,400万円(2019年3月現在)。阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪急阪神不動産、阪急交通社、阪急阪神エクスプレス、阪急阪神ホテルズの6社を中核会社とする純粋持株会社で、グループ全体の事業戦略の策定や経営管理などを行う。